

生体構造機能・病態解析学特講

[講義] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

解剖学は、人体を対象とした学問体系の中でも最も基礎的な学問であり、臨床症状とその要因を関連付けて考察する際にも必須の知識である。臨床症状の原因を解明し、その治療方法を開発ならびに発展させるためには、解剖学を局所的に掘り下げるとともに生理学や運動学とも結びつけ、構造的視点だけではなく機能的な視点を併せて学び、考察を深める必要がある。生体構造機能・病態解析学特講 では、様々な臨床症状に対する予防方法や治療方法の科学的根拠を高めるために、構造的視点や機能的視点を持ち、学生自身が文献等を調査し考察を進める。

【学修目標】

1. 生体構造・病態解析を行うために必要な局所解剖の知識を深めることができる。
2. 文献を基に、臨床症状の原因を解明し考察する局所解剖を理解することができる。
3. 解剖学と運動学、生理学を結びつけて深化し、臨床症状を考察することができる。
4. 臨床症状に対する予防方法や治療方法の科学的根拠を向上させる方法を考察することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 3	オリエンテーションと研究テーマの抽出	調査を行う部位を検討し解剖学的視点での研究テーマを抽出する。	下村敦司
4) 10	調査および考察	文献を基にした調査および考察を進める	下村敦司
11) 15	調査内容の報告と討論	調査により得られた知見の報告を行い、ディスカッションを行う。 これまでの調査・考察・ディスカッションを基に最終課題レポートをまとめる。	下村敦司

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業の内容に伴うレポートを課題とし、評価を行う。（100％）

【教科書】

特に指定せず、授業内容や課題内容に応じて必要な資料を推薦または指定する。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること。（予習・復習各80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域において、学際的視点を活かしながら、先進的かつ独創的な研究を自律的に遂行するための高度な学識と研究能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。